

春の朗報！

少花粉松の量産方法開発

◀◀◀ 岐阜森林研 ▶▶▶

通常の1%以下の県産松

岐阜県森林研究所（岐阜県美濃市、天野善一所長）はこのほど、花粉が通常の1%以下しか出ない岐阜県産少花粉松の量産技術を開発したことを発表した。杉の少花粉品種の増苗技術は実用化されているが、松の苗木を挿し木で効率的に量産する方法は全国初となる。

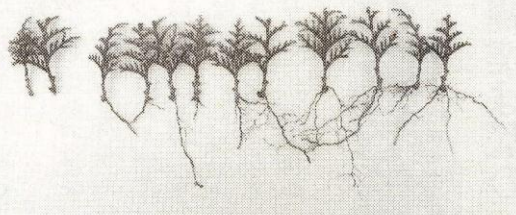
開発に使用した少花粉松は「益田5号」と呼ばれる品種で、樹齢約50年の母樹は県林木育種センター（郡上市）で育てられてい

る。同研究所では3年前から花粉症対策として量産化に取り組み、今回、13年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業委託事業

（花粉症対策松・杉品種の普及拡大技術開発と雄性不稔品種開発）により研究開発された。

発根率80%以上

少花粉松は種子がでにくいいため、挿し木による苗木成と量産化を目標とした。研究の結果、母樹の枝を挿し木して2年間育て、40日に伸びたこの苗（荒穂）から再び枝を12本



少花粉松の苗木

採取し、これを5本の挿し穂に調整して挿し木すると発根・定着率

め、苗木生産者等へ技術移転と情報提供を進める方針だ。

は80%以上となり、量産技術として実用化のレベルに到達した。同研究所では、この苗を育成して造林用苗とし、植栽を進めることで花粉症対策に貢献できるという。

今後は、森林総合研究所林木育種センターほかと共同で挿し木マニュアルを取りまと